

令和7年度

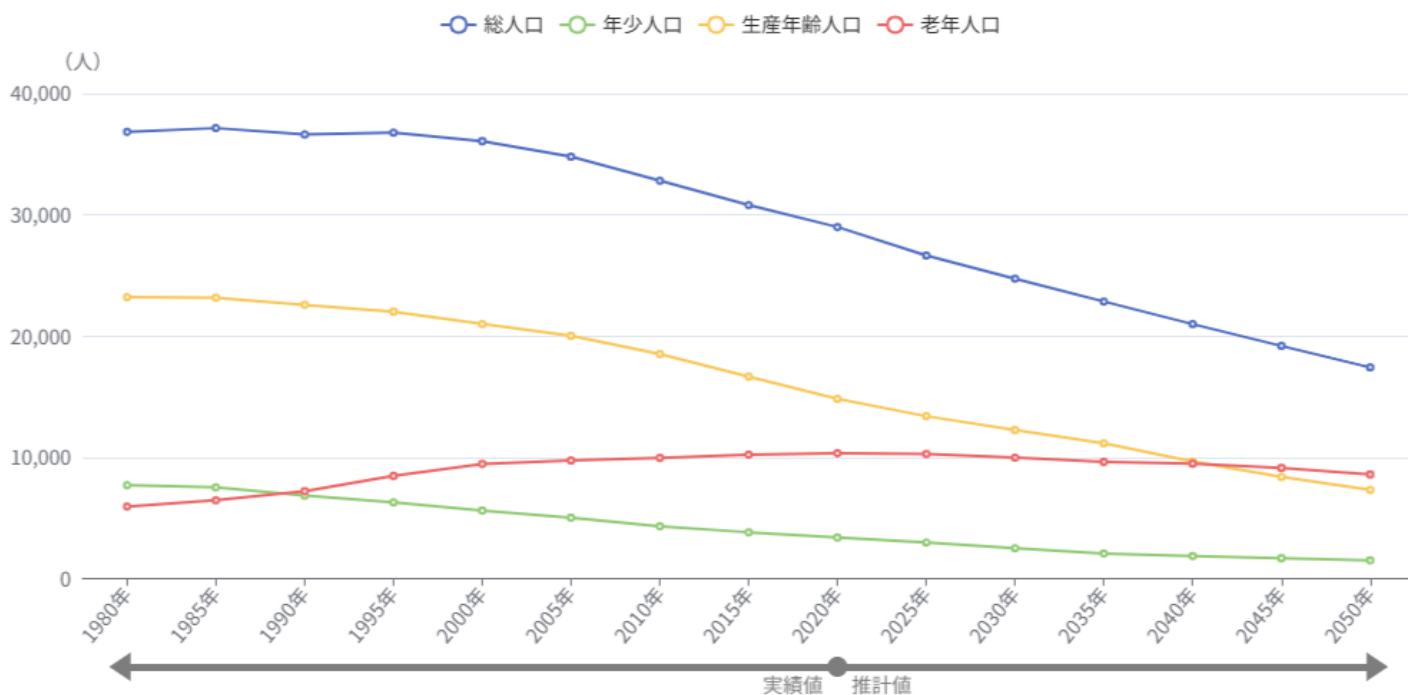
RESAS × 朝来市

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフでわかりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

■人口

人口推移グラフ

兵庫県朝来市



【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

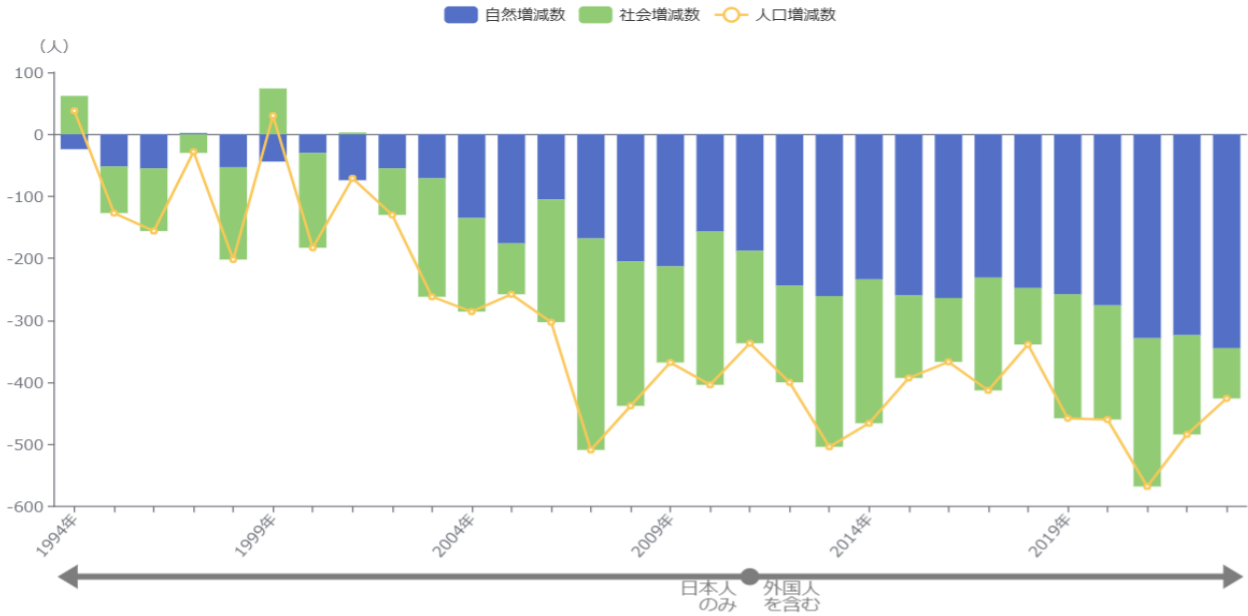
2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。

総数には年齢不詳を含む。

RESASの分析によると、2050年の朝来市総人口は17,415人になると予想されている。また、2045年には老年人口（65歳以上）が生産年齢人口（15～64歳）を追い越すと予想されている。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)

兵庫県朝来市



【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】

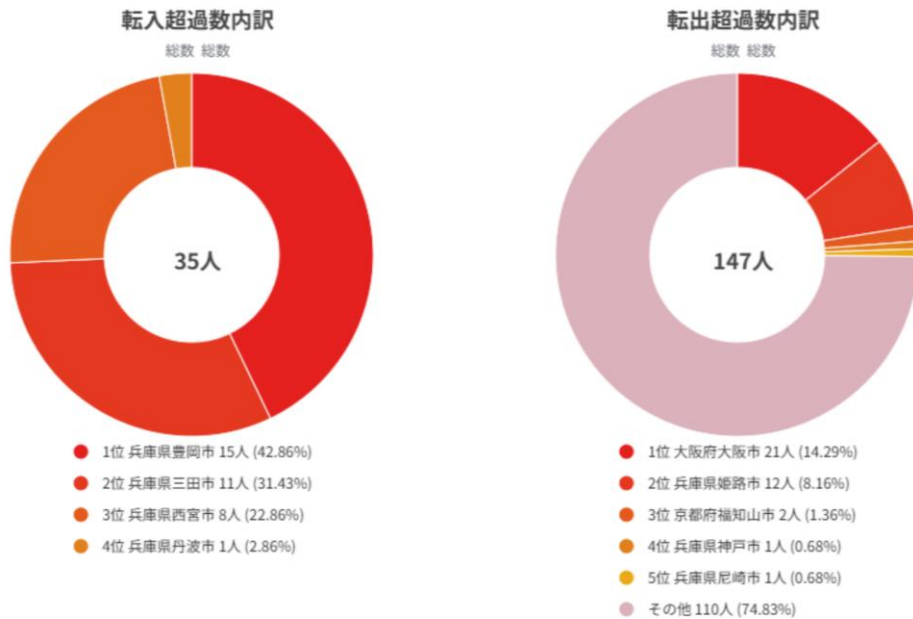
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

1994年から2023年、人口減少の内訳をグラフ化。自然増減数、社会増減数ともに減少の一途を辿っている。（自然増減：死亡数と出生数の差、社会増減：転入数と転出数の差）

From-To分析（定住人口）

From-To分析（定住人口）

兵庫県 朝来市
2023年

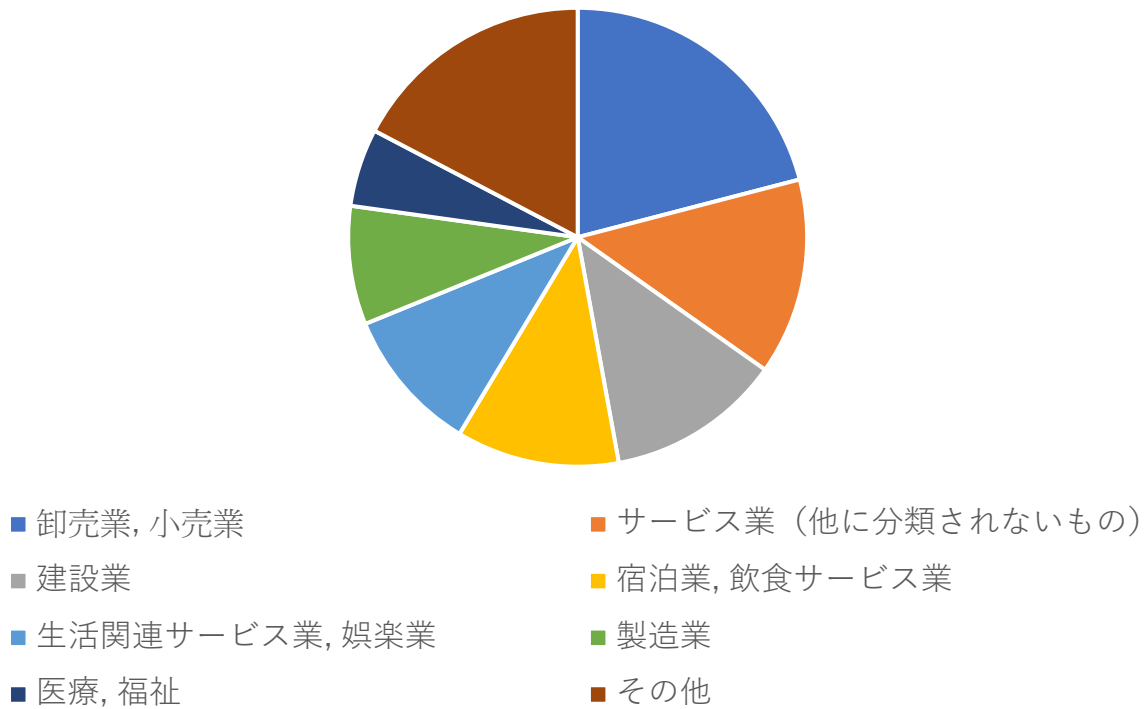


出典：総務省「国勢調査」、上位5位までを表示

2023年においては、転出超過数が転入超過数のおよそ4倍となっている。他県からの転入は無いが、他県への流出が多く、若い世代が進学や就職を機に流出していることが要因だと考えられる。

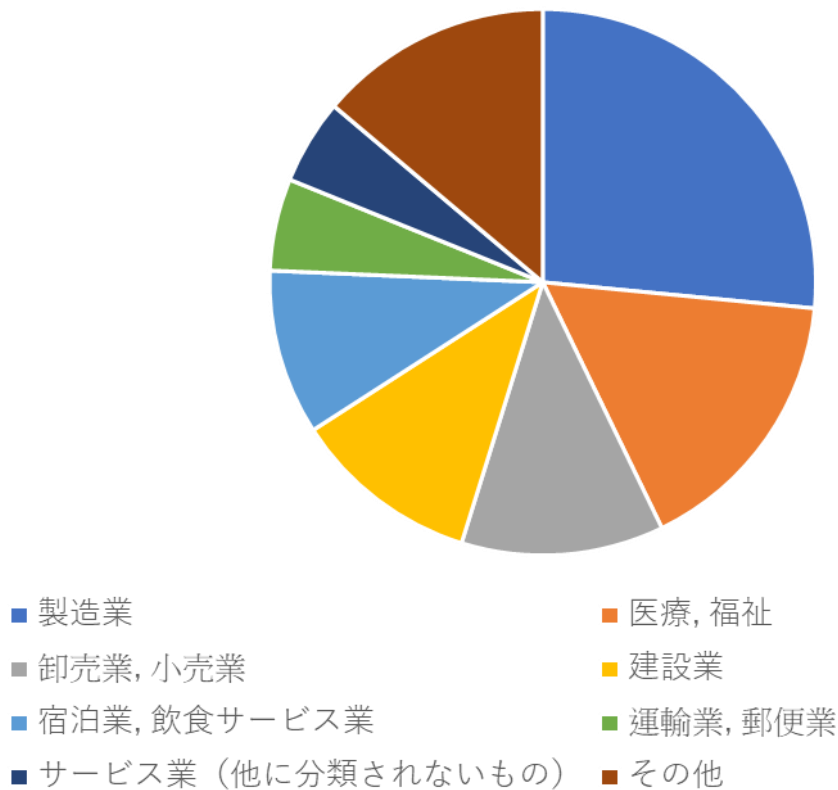
■産業構造

事業所数（全1,184事業所）



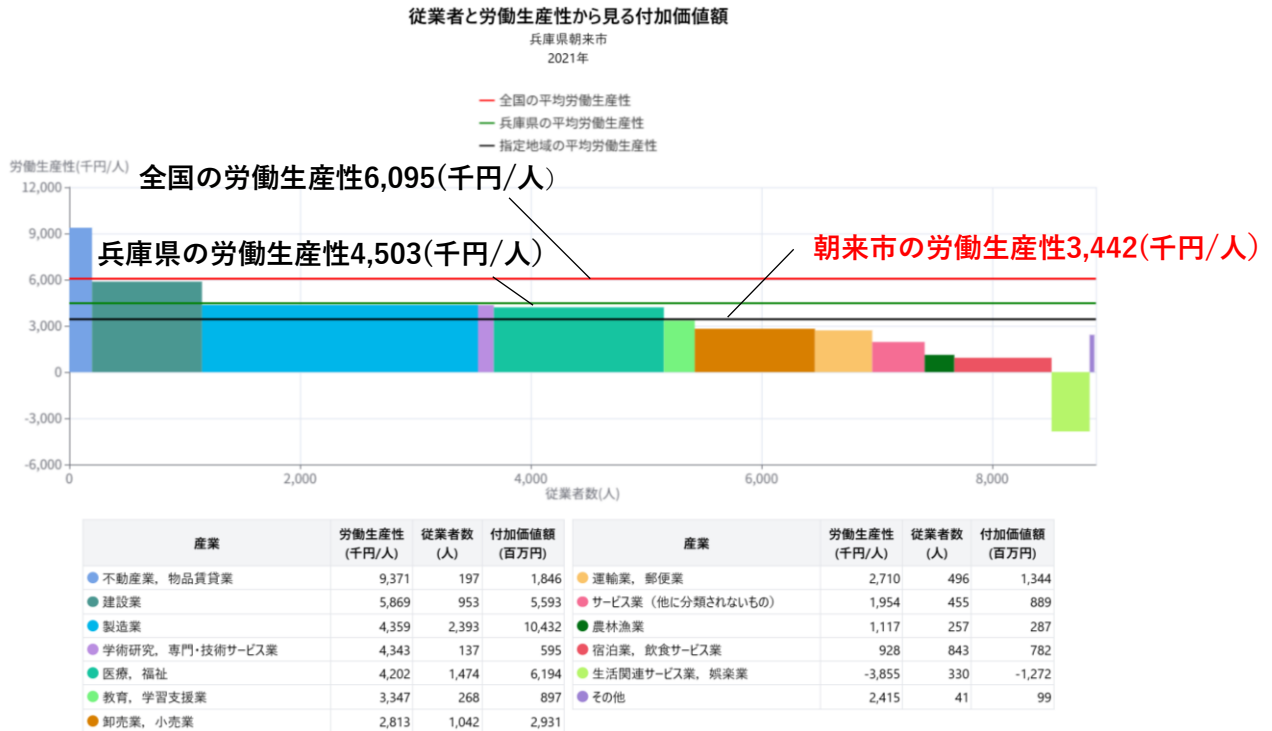
業種ごとの事業所数を面の大きさを示したグラフである。最も多いのは「卸売業、小売業」で248事業所、全体の21%を占めている。（2021年 経済センサス活動調査）

従業員数（全9,101人）



業種ごとの従業者数を面の大きさを示したグラフである。最も多いのは「製造業」で2,414人、全体の26.5%を占めている。（2021年 経済センサス活動調査）

■地域付加価値額構成分析

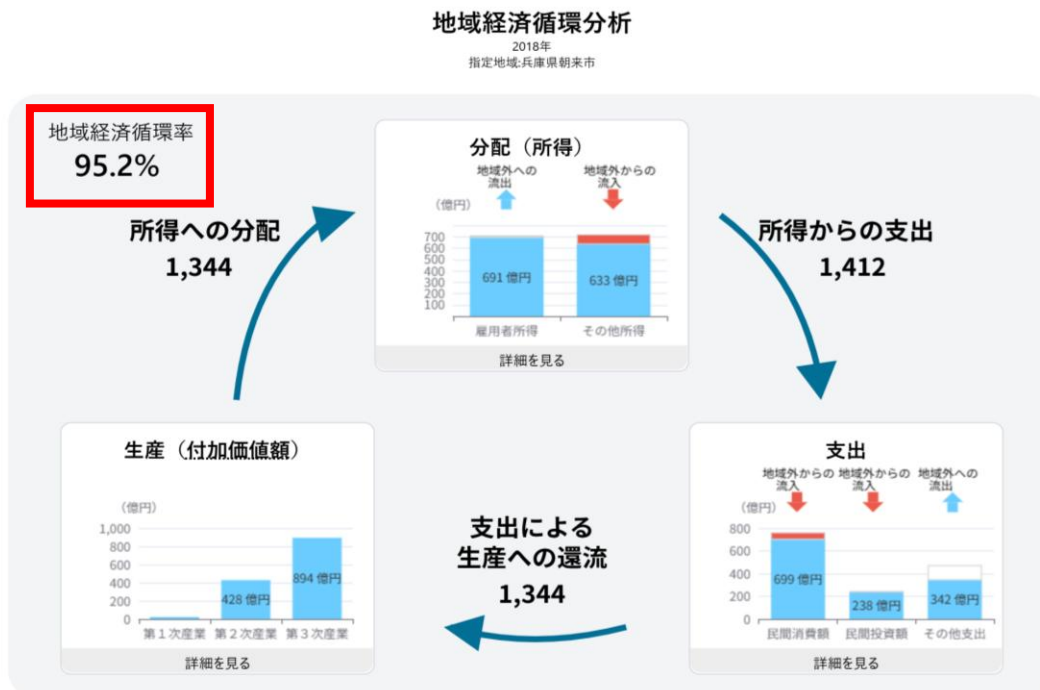


出典：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

注記：付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + ぞ租税公課。労働生産性は「付加価値額 ÷ 重御者数」で算出している（表示単位未満を四捨五入）。

朝来市の平均労働生産性3,442（千円/人）は、全国平均6,095（千円/人）、兵庫県平均4,503千円（千円/人）を下回っている。産業別の労働生産性は不動産業・物品賃貸業が高く、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業が低い。

■地域経済循環分析



【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

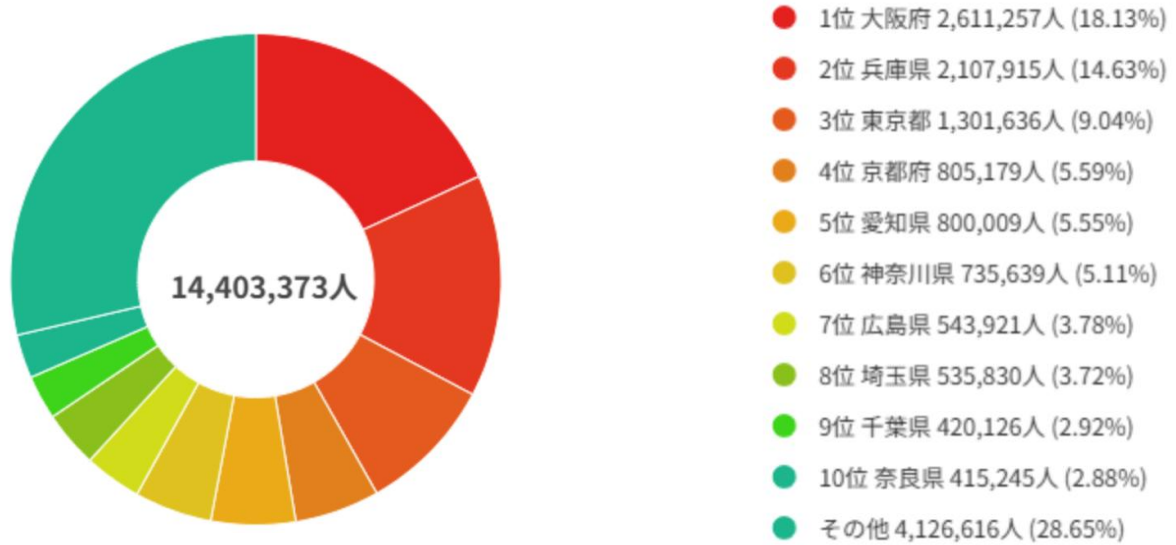
[地域経済循環分析（環境省）](#)

地域経済循環率とは、生産を分配で除した値であり、地域経済の自立度を示す。値が高いほど地域内でお金がよく回っている。朝来市は95.2%であり、兵庫県の93.7%を上回っている為、今後は地域外からの需要（観光・移住・地産品販売等）をさらに取り組む施策が必要である。

■居住都道府県別の延べ宿泊者数の構成割合

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合

2024年 兵庫県

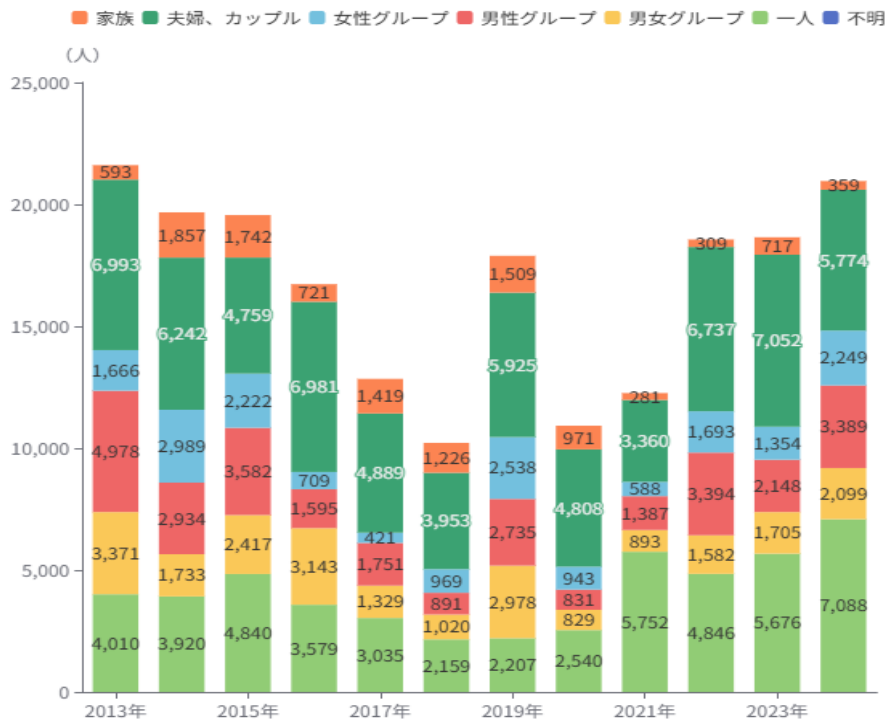


【出典】

観光予報プラットフォーム推進協議会「[観光予報プラットフォーム](#)」

朝来市への居住都道府県別の延べ宿泊者数は、関西圏が中心であり、特に大阪府では18.13%を占めている。また、首都圏（東京都・神奈川・埼玉）からの来訪も17.9%あり、関西圏と首都圏の双方から観光需要がみられる。

■属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移



朝来市内の宿泊客数（総数）の推移と、その内訳を示したグラフである。近年はコロナ禍前の推移まで回復してきている。